

朝日大学病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取組を行っていますが、この様々な取組に加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき 2018 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

2019 年 6 月

朝日大学病院
病院長 大橋 宏重

期 間 : 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

【医療過誤による患者影響レベル 3b 以上の公表件数と概要】

公表件数 : 2 件

分類・レベル	診療・3b
事例	子宮筋腫に対し、子宮全摘術・両側卵管切除術術後に、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症を発症した。適切な対応により、後遺症は全くなかった。
再発防止策	・現在まで術前の深部静脈血栓症のリスク評価と、弾性ストッキング着用、フットポンプ装着などの予防措置をとってきたが、今後も継続する。 ・術後血栓症の可能性を念頭において診察する。
分類・レベル	薬物・3b
事例	ダイナミックCT検査にて、糖尿病薬を休薬する説明を行った。その際、検査当日の朝の休薬をしてもらうことを口頭だけで説明したため正確に伝わらず、説明を受けた翌日から約1カ月間も休薬した。そのため、高血糖となり緊急入院となった。 定期的にダイナミックCTを行っている患者であり、理解しているだろうと思い込んだ。
再発防止策	①休薬を口頭で説明するだけでなく、説明用紙に記載する。 ②休薬期間を記載することを徹底する。 ③説明用紙の記載欄をわかりやすく修正する。